

地域につながる、「生きる」に寄り添う「広場」のような、場所でありたい。

ポランの広場

Vol.
42



独立行政法人

国立病院機構

花巻病院 [広報誌]

2017年10月1日発行

TAKE FREE



❖病院理念

当院で一番大切な人は患者さんです。
寄り添い、想像しながら、ともに前に。

❖運営方針

1. 公的病院としての役割を担い、精神医療並び
重症心身障害児（者）医療の向上に努めます。
2. 地域に開かれた病院を目指します。
3. 臨床研究と教育・研修・情報発信に努めます。
4. 個々の職員がその専門性を発揮し、質の高い
チーム医療を目指します。
5. ムリ・ムダ・ムラのない病院経営を目指します。

今回の表紙



延年の舞

延年の舞(重要無形民俗文化財)は、毛越寺で毎年1月20日に行われる摩多羅神の祭礼(二十日夜祭)で神仏に奉納される、平安時代の古い形式を残す楽舞。現在伝承されているのは「田楽踊」「路舞(ろまい)」「祝詞(のっど)」「老女」「若女欄宜(じゃくじょねぎ)」など10数番で、老女は神前にうずくまって白髪をくしでとかす真似など不思議な所作をする。

写真：八木深



岩手山と一本桜

ポランの広場が再び始まります。宮沢賢治はそこに行く元気になる場としてポランの広場を描きました。花巻病院が、そこに行く元気になる場になればと思います。

10月は収穫の秋で、文化の秋でもあります。ここ花巻は、宮沢賢治が生まれた土地で、賢治は、風にざわめく雑木林やどんぐり などから、創造の世界を広げました。賢治の世界には、風景そのものが描かれているわけではないのですが、かと言ってまったくの絵空事というわけでもありません。賢治の母体はイーハトーブ 岩手にあります。

くらかけの雪

たよになるのは
くらかけつづきの雪ばかり
野はらもはやしも
ぼしやぼしやしたり 黝^{くす}んだりして
すこしもあてにならないので
ほんたうにそんな酵母^{かうぼ}のふうの
臃^{おぼろ}なふぶきですけれども
ほのかなのぞみを送るのは
くらかけ山の雪ばかり
(ひとつの古風^{こふう}な信仰です)

岩手山の中腹にくらかけ山はあります。なだらかな山です。たよになり、ほのかなのぞみを送る。全体は酵母のようで臃で、やわらかい

想像する

。

✎ 八木 深 .. 花巻病院病院長



心象スケッチを

雪に包まれています。包み込み育むものが、見えるものに呼応した見えないもの、心象風景として広がっています。

くらかけ山と対比すべきは岩手山です。

岩手山

空の散乱反射のなかに
古ぼけて黒くえぐるもの
ひしめく微塵の深みの底に
きたなくしろく澱むもの

包み込み育むものと対比して、古ぼけて、微塵の深みにきたなくしろく澱むもの。聖なる空に対する世俗の微塵を賢治は嫌ったのは確かでしょう。くらかけ山を母に喩えるなら岩手山は父でしょう。賢治の場合、父が世俗に結びついています。

しかし、岩手山は世俗なのでしょう。包み込み育むものに対比されるもの、空の乱反射の中にえぐるもの、これも、見えるものに呼応した見えないもの、心象風景です。えぐる力は、世界の構図が変わる、創造の源であるように思えます。

銀河鉄道の夜では、黒い丘の方へ急いで、町のはずれから遠く黒く広がった野原をみわたすと、汽車の音が聞こえてきます。銀河鉄道は、今の釜石線を走っていた軽便鉄道をモデルに

したのではないかととも言われますが、物語は、見えるものの背後で生まれています。

こんなやみよのはらのなかをゆくときは
客車のまどはみんな水族館の窓になる
(乾いたでんしんばしらの列がせはしく遷つて
ゐるらしいきしやは銀河系の玲瓏^{れいろう}レンズ巨きな
水素のりんごのなかをかけてゐる)

青森挽歌の冒頭です。妹とし子の死後、賢治は、青森からカラフトへと旅をしました。こんなやみよの、喪失の心象風景の中で、銀河鉄道は生まれます。賢治は、やみの中へ、外から夜汽車の窓を見て、さらに銀河の外から銀河を見ます。喪失の中で視点が飛翔し物語の創造が始まります。

銀河鉄道の夜では、鳥捕りは、どうしてって、来ようとしたから来たんです、と言いながら、汽車の外からいっぺんに隣の席にきます。そしてジョバンニが、一緒に行こうねえと言いながらふりかえって見ると、カムパネルラの形は見えず、ただ黒いびろうどばかりひかっていました。

わたくしといふ現象は
仮定された有機交流電燈の
ひとつの青い照明です
(あらゆる透明な幽霊の複合体)
風景やみんなといつしよに
せはしくせはしく明滅しながら
いかにもたしかにともりつづける
因果交流電燈の
ひとつの青い照明です

わたくしという現象は、風景やみんなに同期し、わたくしを超えてつながってゆきます。見えるものの背後に見えない心象スケッチを想像することで、いっしょに明滅し、対話がはじまります。

私たちは、寄り添い、想像しながら、ともに前に進んでゆきます。



病院行事

わかば病棟運動会

中村香代子…主任保育士

6月25日の日曜日
わかば病棟恒例行事の一つである
「運動会」が運動療養棟（体育館）で
総勢147名の参加で
開催されました。
ニューフェイスも含め、みんな元気に
競技に挑みました。



6月25日の日曜日14:00～15:00、わかば病棟恒例行事の一つである「運動会」が運動療養棟（体育館）で総勢147名の参加で開催されました。

ニューフェイス（新患者）2名による「開会の言葉」を皮切りに、親の会会長挨拶、その後、全員で「うんどうかい」の歌を合唱し気分を盛り上げ、ラジオ体操で体を慣らし競技に挑みました。

競技①「2017、海、アタック前進」は、紅白2チームに分かれ、まず、ジョーズ鮫の箱をくぐりぬけ、次に待ち受けるビックウェーブ目がけて突進しゴールを目指す競技です。ジョーズの箱を上手く潜り抜けられるかが、勝敗の決め手となりました。

競技②「VS嵐」は、TVでお馴染みの松潤や相葉ちゃんのポスターが貼ってあるゴール目がけてボールを投げる競技です。家族やボランティアさんの力を借りて、それぞれが「持てる力」を発揮してボールを投げて点数を競い合いました。

最終競技の前に「応援合戦」で景気づけ。今回は、仙台西多賀病院の4名の保育士が急きょ「仙台西多

写真①：最終競技の「紅白玉入れ合戦」。写真②：「VS嵐」の一場面。写真③：「仙台西多賀牛タンZ」の応援合戦。写真④：「2017、海、アタック前進」の一場面。



賀牛タンZ」を結成し、自作の手作り衣装をひっさげて応援に駆け付けダンスパフォーマンスを披露してくれました。リズムカルなテンポに誘われ、ボランティアさんも飛び入りで参加し応援合戦を盛り上げてくれました。患者さんもお家族も、そして、ボランティアさんも笑顔や笑い声で体育館がにぎわいました。

ここまでの紅白の点数は、大きな開きもなく紅組がわずかに優勢。そして迎えた最終競技③「紅白玉入れ合戦」。泣いても笑っても、いよいよ勝敗が決まります。ドラえもんボックスの紅組、ミッキーボックスの白組、ピーの笛の音と共に一斉にカラーボールが宙を舞いました。2回チャレンジして、どちらも白

組ミッキーボックスのボールが断トツに多く、今年は「白組」優勝で、昨年のリベンジを果たしました。

優勝賞品（親の会より）は、カラーボール200個と音色の優しいリングベル20個でした。日々の活動の中で、みんなで使わせて頂きます。ありがとうございました。

今年も、社会福祉協議会のご協力で花巻市の民生委員18名のボランティアのみなさんといつも行事に、ご協力頂いている一般ボランティア5名のみなさんのご協力を頂きました。

そして、ご家族（32家族）のみなさん、花巻清風支援学校の3名の先生方、仙台西多賀牛タンZの4名の保育士さん、前職員7名のボランティアのみなさん、ありがとうございました。

わかば病棟関係スタッフ（看護師、療養介助員、OT、PT）の見守りの中、無事に笑顔で楽しく運動会を終えることができたのも、ひとえに皆様のご協力のたまものと感謝申し上げます。





社会復帰に向け、単身生活に近い環境での生活が出来るGTハウスの設備。

topics

01

社会復帰に向けての 外泊訓練棟が完成しました

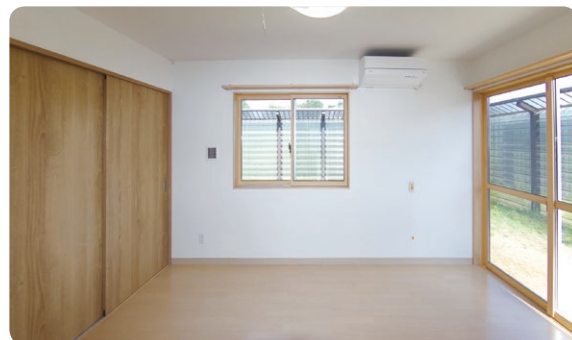
山村 卓：主任心理療法士



この度、みずき病棟（医療観察法病棟）に宿泊訓練棟が設けられました。医療観察法は対象者の社会復帰を目的としており、私たちスタッフも入院された対象者の方と共に社会復帰に向けて取り組んでおります。みずき病棟では多職種によるチームで多様な治療プログラムを展開し、対象者個々に合わせた治療を行っております。しかし様々なプログラムを行ったとしても病棟の治療ではどうしても難しい課題があります。それは実生活の感覚を取り戻

す、養うことです。

入院生活と退院してからの地域生活との間には大きな違いがあります。入院生活においては病状の改善を図ったり、対象者自身の病気のことに学んだりしますが、社会生活となると、起床から就寝まで、食事の準備、入浴、掃除、洗濯、薬の服用と管理など、実に多くのことを行う必要がでできます。治療を続けながら、そういった日々の生活をどう組み立てたら良いのでしょうか。宿泊訓練棟は単身生活を想定した作りになっており、キッチン、バス・トイレ、寝室を備えた構造になっています。この宿泊訓練棟で生活してみると、病棟生活では分からなかったいろいろな課題の気づきや、発見があり、新たな工夫も生み出すことができるのではないのでしょうか。よりリアルな地域生活に近いかたちでの練習を重ねていくことで、入院対象者の方もスタッフも、これまで以上の実感を持って社会復帰に向け歩んでいけるものと考えております。



リビングルームとなる部屋。窓を大きく設けるなど、実際の生活環境に合わせた作りとなっています。

topics

02

『包括的暴力防止プログラム』 CVPPP研修会って何？



中村 文信：CVPPPインストラクター みずき病棟

当院では『包括的暴力防止プログラム（CVPPP）』というプログラムを伝える研修を平成24年から年2回開催しています。今年の6月に通算で10回目となるCVPPPトレーナー養成コース研修を開催し、定員を超える応募者の中45名の方が受講されました。これまで当院で開催された研修で435名の方がトレーナーという資格を取得されています。

“CVPPP”という言葉は初めて聞いた方もいらっしゃると思いますので簡単に説明をしたいと思います。CVPPPは『包括的暴力防止プログラム』の略で簡単に言うと“患者の心に寄り添い暴力を未然に防ぐプログラム”です。精神科に入院している患者さんは病気の症状などに影響され時には自分の意としないところで攻撃的になってしまうことがあります。CVPPPは、そんな患者さんが抱える悩みや辛さに寄り添い、一人で背負わずに穏やかに生活を送っていただけるように援助することを基本理念として取り組んでいます。



〈チームテクニクス演習の様子〉
エスコート法：後ろから2名のスタッフで介入して移動してもらう方法。

今では研修会を重ねるにつれ看護師以外にも医師や臨床検査技師、病院事務職員や消防士など様々な職種の方の参加も増えてきました。

これからも患者さんが安心して信頼できる医療を提供できるように努力していきたいと思っています。



〈チームテクニクス演習の様子〉
仰向けからうつ伏せに体位変換する方法。



小顔ポーズでニコリ^o^

topics

03

院内新規採用者研修会を開催して

野地 富貴子：看護師長

平成29年4月5日、新採用者研修を開催しました。今年度は15名が新採用者として入職しました。看護部の概況・看護倫理と接遇、看護部教育体制、精神科看護概論、認知症概論、重症心身障害児（者）病棟について講義を受け、看護師長から病棟・外来紹介がされました。意見交換会では、多田看護部長を始め、各看護師長とともにアイスブレイクを実施し、新採用者の仲間として緊張もほぐれた様子でした。みんなで輪になって「何がでるかな〜♪」「何がでるかな〜♪」の音楽に合わせてサイコロ質問を

しながら自己紹介もしました。当たり目のサイコロが出れば、花巻温泉の素がプレゼントされ、全員和気藹々と楽しみながら参加していました。

最後に、これからの活躍を祈念して「大泉事務部長流の締め」を全員で行いました。一日だけの看護部の研修ではありましたが、15名という仲間とともに研修を通して、病棟配属への意気込みへと変えていきました。



最後の締めは「ハアヤッショ♪マカショ♪」



topics

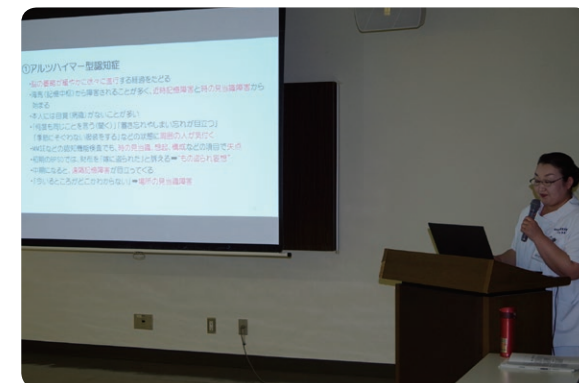
04

認知症に関する地域研修会を開催して

藤村 茂行：医療社会事業専門員

6月28日（水）に認知症疾患医療センター第1回研修が『認知症者に寄り添うケアとは』をテーマに当院にて開催されました。花巻市、北上市を中心に様々な職種の方々に多数ご参加いただきました。今回の研修は、認知症疾患医療センターとしては初めての試みでしたが、たくさんの方にご出席いただくことができ、活発な意見交換も行われました。

本研修では、認知症の病態や治療についての講義、そして事例を交えながら、認知症の方をどのように理解し、ケアを行っていくかについての講義が行われました。本研修は、認知症についての理解促進の目的のほか、地域における“顔の見えるつながり作り”も目的としています。たくさんの方々にお集まりいただいたことで、“顔の見えるつながり作り”の大きな1歩になったと実感しています。



当院認知症看護認定看護師の川口真里さん。

今後もより良い地域福祉・地域医療連携のため、研修会を開催していきます。皆様のご参加をお待ちしております。



公演中の様子。定員を超える応募があり、多くの機関からご参加をいただきました。想像力を豊かに、認知症の人の思いを想像することの大切さを学びました。



看護師をはじめ、全職員が対象です。

7月7日(金)に、障害者虐待防止研修会が開催されました。障害者虐待防止法は、「障害者の権利及び利益の擁護」を目的として、平成24年10月に施行した法律です。施行後は、障害者虐待対応の窓口として市町村に「市町村障害者虐待防止センター」、都道府県に「都道府県障害者権利擁護センター」が設置され、今では、人権擁護や虐待通報に関するルールも市井に浸透した感があります。

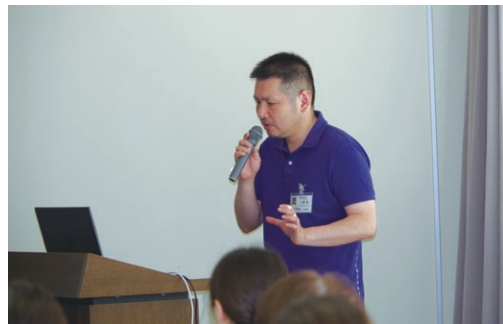
さて、当院は、ご周知のように、精神科治療を行っている医療機関ですが、1つだけ障害をもつ方が入院する病棟(重症心身障害病棟「わかば病棟」)があります。福祉の法律である「障害者虐待防止法」は、制度的に、この重症心身障害病棟に適用されることになります。今回の研修会では、具体例を交えながら、主に「障害者虐待の類型」についてお話ししました。

同法で定める障害者虐待には、①身体的虐待(例:殴る、蹴る、閉じ込める、不要な薬を飲ませる)、②性的虐待(例:性行為を強制する、性器への接触、裸にする、わいせつな話をする)、③心理的虐待(例:怒鳴る、悪口をいう、仲間に入れない、わざと無視する)、④放棄・放任(例:食事を与えない、入浴させない、劣悪な住環境で生活させる)、⑤経済的虐待(例:

障がい者の『権利』を守るために！

本人の同意なしに金銭を使用する、年金や賃金を渡さない、本人の同意なしに財産等を運用する)があります。障害者の尊厳を守るため、これらの行為を禁止することはもちろんですが、それ以上に大切なのは、虐待の予防と早期発見のための取り組みです。

そのためには、禁止されているから「やらない」という硬直的な思考ではなく、「どうしたら起こさないか」という検索的な思考が必要になってくると考えます。私たち(職員)が、患者さんの視点や志向性を読み解いていけ



自分の行動を問い直してみる！

ば、私たち自身の関わり方が柔軟なものに変わっていきます。つまり、虐待防止の予防です。

今後も研修会を継続して行い、関わり方を常に見つめていきたいと考えています。

✎ 小関 敦：療育指導室長



掲 示 板

●研修会参加報告

第13回 医療観察法病棟 関連職種研修会に参加して

✎ 工藤 直人：みずき病棟看護師長

平成29年6月30日(金)から2日間、第13回医療観察法関連職種研修会が開催されました。当院からは病院長、みずき病棟看護スタッフ4名、コメディカルスタッフ3名の計8名が参加しました。この研修は医療観察法医療の質の向上を目的として毎年開催されています。今年度の研修は『医療観察法医療の限界と可能性』をテーマとして開催され、医療観察法医療の効果的な面と抱える問題との両面を、研修参加者で討議・情報共有する場となりました。花巻みずき病棟は開棟12年目を迎え、各施設に先駆けて治療プログラムの開発・導入を実施してきましたが、他の施設においても効果的な試みが多数発表されていました。7月に病棟内において研修参加報告会を実施し、各施設の貴重な発表を今後の病棟運営に活かしていきたいと考えます。



●研究学会参加報告

平成29年度 国立看護研究学会に参加して

✎ 藤澤 聡美：わかば病棟看護師

平成29年6月10日、北海道東北国立病院機構・国立療養所看護研究学会において「自閉症患者の破衣行為に対する行動療法の検証」と題した研究結果を発表してきました。内容は、破衣行為が頻回で他患者様と共同生活が困難な自閉症患者に対して行動療法を行い、他患者と共同生活が送られるように支援したというものです。強化子のスキニップを基本とした余暇活動による行動拡大と患者に調和させる環境調整を取り入れることで、現在は多くの時間をプレールームで他患者と一緒に過ごす事が出来ています。

わかば病棟は自ら訴える事が難しい患者がほとんどで、看護者の観察力とアセスメント力がとても重要となります。対象の患者は自傷や不穏行動で気持ちを表現しました。

今回の研究で看護師は、対象の患者に統一した関わりを行い、本人と向き合い、信頼関係を構築することで、言葉では発する事ができない情報を表情や動作で汲み取り代弁者の役割も果たす事が成功に繋がったと考えます。



外来診療担当医表

平成29年10月分

診察室／曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第1診察室	第3週 榊原	石井	吉村	八木	第1・3週 榊原
第2診察室		第1・2・5週 大島		石井	支援医師
第3診察室	櫻井	第1・2・3・5週 中嶋	上田	櫻井	第1・2・3週 中嶋
第4診察室	渡邊	渡邊			渡邊
第5診察室					

※外来受診は、予約制となります。 ※新患予約受付については、地域支援室（内戦691）までご連絡願います。

※[受付期間] 平日（土・日・祝日・12/29～1/3を除く）9:00～17:00



【敷地内全面禁煙のお知らせ／平成29年10月1日より】

健康増進法では、「病院、学校など多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるよう努めなければならない」と規定されています。

当院は、職員及び外来・入院患者様、ご家族様の健康を護ることを使命にしている病院の立場を考え、平成29年10月1日より敷地内全面禁煙を実施することとしましたので、ご理解とご協力をお願いします。

イベント告知



→ 昨年度の花巻病院文化祭の様子



平成29年度 花巻病院文化祭のご案内

今年で第7回目となる病院文化祭を平成29年10月28日（土）午前10時から開催いたします。今回も様々な催し物、出展・販売、作品展示などを企画予定ですので、是非みなさまのご来場をお待ちしております。

編集後記

しばらくお休みしておりました当院広報誌の発行が、紆余曲折の末、約2年半ぶりに再開しました。以前の広報誌とはデザインを一新して、対外的にも当院の雰囲気やアクティビティが十分伝わりやすいよう、また、多くの方に目に留めていただき、手に取りたくなる、そのような思いの元、今後も定期発刊できればと思っています。

もちろん、記事に関するご意見・ご質問大歓迎です。今後ともご愛読よろしくお願ひします。【広報委員・A】

